
つくばみらい市立東小学校区における意見交換会

《 平成 28 年 11 月 23 日（水）午前 10 時 30 分～ 東小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適性配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

事務局： それでは、2. これまでの経緯、3. 『つくばみらい市義務教育施設適性配置基本計画』について、4. 今後の進め方について、事務局よりご説明いたします。

《事務局より資料の説明》

5. 質疑・ご意見等

事務局： それでは、質問等がありましたらお願いします。

市民： 本日はご苦勞様です。東小学校の意見交換会だということで本日参りました。前にいる方達は、統廃合のプロだと思います。けれども、ここに集まっている少人数の人達はみんな素人です。だから、みなさまのご意見に従っていくほかないと思うのです。私は第一回の卒業生ですので、この学校は私が小学校一年生のときに開校しました。反対しても恐らくみなさまの意見は通ってしまうと思っています。しかしながら、それと同時に、この地区は過疎地になってしまうのではないかと心配しています。

この学校の周りは、都市計画上は家を建てられるようになっている。この地域に住んでいる保護者はみんな、この学校に人が来ればいいなと思っていた。今は全校児童が 45 名。その 45 名に対して地域はどのように協力していけばいいかと考えている。地区の女性は達、自分の子が通ってなくても、毎月、草取りをしているし、地区の男性達はこの周りを綺麗にしたりしている。商店街もあるわけではないし、食堂も学校もなくなるとは、将来的に住む人もいなくなってしまうのではないかと。大きい学校に対しての利点もあるかもしれないが、小さい学校としての利点もあるのではないかと。統廃合について反対だが、統廃合のプロが言うのだから我慢している。地域の発展という面では、学校がなくなってしまうことで、過疎が進んでしまうのを心配しているが、どのようにお考えだろうか。質問に対して、いつも持ち帰ってから回答すると言われるが、今の質問に対しての回答はしてくれるのだろうか。

事務局： この学校を中心とした東地区の発展という上では、今後この学校がなくなってしまうことによる過疎化への懸念、その通りだと思う。しかしながら 45 名の子どもたちに対して、適切な教育活動を行われているのであればこのままでもいいのかなと思う。しかし、現状はそうではない。

ある程度の児童数が必要なのかなと、子どもたちの将来を考えると本当にこのままでいいのだろうか。地域のことも、子どもたちの事も地域全体で知恵を絞って考えたい。こうすればこうなるというような明確な回答をこの場ではできないが、これからがスタートとして一緒に考えていきたい。

市 民： 統廃合となった後は、学校はどのように使われるのか。

事務局： それが一番のポイントになるのではないかと考えている。今まで地域の拠点であった小学校が、今後小学校じゃなくなった場合には、別の施設の利用を考えなくてはならない。できれば、東小学校は耐震対策も済んでいるので有効に活用したい。それも、皆さんと一緒に考えていきたい。明確な答えが出せなくて申し訳ないと思っているが、子どもたちの将来のことを考えて、みんなでこのままでいいのか考えたい。統廃合によって、東小学校の校舎を違う用途に活用することで、それを起点に東地区の発展に繋がればと思っている。

市 民： 素人では考えられない。地元の人達だけで考えるのか。役所が活用方法を考えているのか。プロたちは考えてくれないのか。普通、結婚した若い人達は、新居に病院や学校や商店街などを最初に考えて選ぶ。現在のつくばみらい市も、駅の近くは発展しているが、開けてない地域の過疎化はますます進むのではないか。40年前に作った団地も今では過疎化してしまったが、今のつくばみらい市も4、50年後は、住む人がいなければ過疎化の波が来る。何百億と使って学校を作るお金を、少数地区に回して色々建てれば住みたい人が来てくれると思う。小さい学校こそ大事だと思う。大きい学校を作ろうという事だけを考えているのではないか。小さな地域のことも考えてほしい。

事務局： 小さい学校がダメだと言っているつもりはない。

市 民： そんな風に聞こえる。小さい学校は潰せばいいと聞こえる。

事務局： おっしゃりたいことは非常に理解できる。つくば市でも統廃合の話が進んでいる。つくば市では、小中一貫校で2つの中学校と6つか7つの小学校が全部統合するというので、つくばの山のふもと辺りにその学校が近々完成することとなるが、学校は、建てればどこの地区も残る。かなりの費用を投じているので、これを更地にすることは絶対にできない。また子ども達もすぐには転居するわけではない。通う学校は変われど、子どもたちは地域に住み続ける。3世代交流は、学校が変わっても出来ることだと思う。秋祭りの時に、板橋に通っている子たちを東地区に招いてもいいかもしれない。そのようなことで、コミュニティは続いていくと思っている。小学校を何に使うかは市でも一緒に考えていく。東小学校は、地域に住んでいる人たちの学校だと思っているので、もちろん地域の意見も大事にしたいと考えている。これは、三島や十和、福岡にしても同じだと思っている。学校は残る。住んでいる人たちもずっと住み続けている。学校を中心に地域を盛り上げている。この学校は無くならない。学校を中心に人が集まり盛り上げるということを考えていきたい。

市 民： そんな事を言っても、地域の人には素人だ。しかも、夫婦共稼ぎという時代。残った建物をどうやって使うか地域の人と一緒に考えましょうといってもどうなのか。

事務局： みらい平の小学校であれ、子どもは、成長するにつれて市外に出て行き、人が少なくなる時期は必ずやってくる。これは近隣の取手市でも同様の現象が起きている。この学校に関して言えば、今度5年生になる女の子2人だけ。秋祭りなど事あるごとに東小の様子を見て、足を運んでいる。その度に、何とかしてあげたいという気持ちになっている。人数がいれば出来るようなことも、人が少なすぎでは何もできない。授業だってもっといろんな意見を持った友達と意見を交換し合える。それができない、どうしたらいいのだろう。一学年の児童数が少ないことは、出来ないことが多すぎる。中学校のように、小学校においても、教科担任制の時代。先生を配置することは難しい。児童が少ないということは、配置する先生も少ない。算数や理科の先生も配置したい。隣の学校ではできていることをこの学校ではできない。中学校で大きな学校へ通うのだから、小学校を統合しなくてもいいのではないかと思うかもしれないが、小さい学校に通うのと大きい学校に通うのとでは、子ども達の将来に非常に大きな違いが出てくる。現在も、つくば市などでは、違う学校同士と一緒に宿泊学習、運動会や校外学習などやっているが、それでも限界がある。無理やり統合させようなんて考えはない。子どもたちのためにどういう学校生活がいいのか考えたい。どんな理科の時間が、体育の時間がいいのか、一教科一教科、子どもたちが過ごす時間がいい時間になるように、子どもたちが「今日はこんなことして楽しかった」と一日の終わりに家族に話せるような学校づくりがしたい。

市民： 東小学校の南側、3.11の時、道に30センチも亀裂があつて、埋め戻したものの、そのまま、3年間は放置してあつた。その間、何も無いところにロープ一本だけ張つてあつたが、子どもたちにとっては危険だつたと認識して、教育長にフェンスを作るように頼んだ記憶がある。無くなるような学校だから対処が後回しにされたのではないか。校長にお願いしたが校長でさえ教育長さんにはこれ以上意見を言えない様子だつた。教育長は“子どもたちのためだ”、“子どもたちのためだ”というが、少数先鋭の良さを考えてくれているのだろうか。まちづくりのプロを目の前に、少数派の自分たちは人が少なすぎて意見すら出てこないのではないか。つくばみらい市は、日本一の増加率だと言われているが、TXから南側は何の恩恵もない。

市民： 私は東小に子どもを通わせている小学校3年生の保護者。職業柄、市内の子どもたちと話す機会が多い。みなさんは板橋小学校の現状を知っているのか質問したい。

事務局： 知っている。

市民： 荒れていると聞いており、とても心配している。子どもたちから去年聞いた話と、今年聞いた話、状況は殆ど同じようだ。つまり、去年から今年にかけて板橋小学校内の問題点が改善されてないのではないか。大規模校になることについてのメリットもわかるが、学校が正常に機能していることが前提になっていければの話だと思う。小学生にとって長時間過ごす学校生活がその子のすべてと言っても過言ではない。学校が荒れるとか学級崩壊とか教師に文句を言うなどは、東小学校は無縁。外から引っ越してきた私から見ると、児童は純朴な印象。子どもは悪い影響を受けやすいので、板橋小に通わせることに嫌悪感がある。板橋小学校内の問題が解決されていないのはどういうことなのか。市や教育委員会には、板橋小学校の現状を把握いただきたい。板橋小学校の課題が解決されていないとわが子を板橋小学校には通わせたくない。どのようにお考えか。

事務局： 学年の中でのメンバーや家庭の事情も含めて色々あると思うが、確かにそういうこともある。中学校で見てみると、東小の校区である伊奈東中も、つい最近まで大きく荒れている時期もあった。今は、二年前とは違い素晴らしい学校になっている。先生たちも生徒たちと向き合って頑張っている。

板橋小においても、そのまま伊奈東中学校へ進学したら困るので中学校も小学校と連携して、その子どもたちを見守っている。いろんな形があって、いろんな経験を積みながら育っていく場所が学校である。何も無いところで育っていくことがベストではないと考えている。いろんな人がいていろんな体験をして、そこで悩みながら、耐えたり、違う主張をしたりということが、この東小ではできない。それは先生においても同じことである。東、三島などの一学年単学級の学校には一番気を使って先生の配置を決めている。一人でも輪を乱すような先生がいたら、やっていけない。

市 民： 回答がズレているようにも思う。問題が解決されないまま、荒れている状況に入っていけないのか。

事務局： 中学校に入ったらどうするのか。

市 民： 中学生は、子どもたちも今よりは年齢が高くなり、今よりは自分で考える力も付いている中で対応できると思う。小学生はまた別だと思う。

事務局： 学校というのは、大変な時期もあれば、そうでない時期もある。子や親が変われば状態も変わり、良い状況を保つということは難しい。いろんな子がいるという場所が学校である。いい子だけを集めるということはできない。

市 民： 良い子だけを集めるという話をしているのではない。現状、板橋小学校に問題があるということを決してもらいたくて言っている。問題を解決するということと、小学校を統合するという話は別。先に、問題を解決するようにしてもらいたい。

事務局： 問題は必死に解決しようとしてる。しかし、それは学校の一面、ごく一部である。そういう子もいるんだということを知って生きて生活するのもひとつの生き方。それより、人数が少ないことにより目指す教育ができないことが問題。子どもの時培われたものが親になって、出てくるので、大人数の中で社会性を身につけさせたい。

市 民： そこには同意します。

市 民： 私は1年生の保護者であり、東小学校の卒業生である。学校がなくなるのは残念で反対。みらい平地区はどんどん発展して人も多い。東地区は、まったく発展もなく、さらに過疎化が進んでいる。発展している方だけが優遇されているように感じる。私自身、地域に育ててもらったと思っている。自分にも3人の子どもがいる。子どもの頃に親や友達、地域の方に、育ててもらったように、子どもたちも同じように育ててもらいたい。人数が少ないからと、話が出るが、少人数だからこそ、きめ細やかに子どもを見られる。学力面も上がってくるのではないかと。

グループ活動などはできないが、みらい平から通学してもらって東小学校でいろんな活動ができるようにするという考えはないか。

事務局： まったくできないということはないが、陽光台小学校は今現在で 1,000 人が通学しており、飽和しつつあり 2 校目を建設中。その中で、振り分けが難しい。

市 民： 振り分けが難しいというのはどういう意味だろうか。学区外から外の地域にも小学校があるというアナウンスもできるし、行きたいという人の希望を募るということもできるのではないか。

市 民： 東小学校を残すことはできないのか。

事務局： 反対意見がある中で、無理に進めていくことはないが、複式学級の問題や、これからの人口推計が減っていくと見込まれる。5 年から 10 年単位で考えると、45 人の現状から、30 人、さらに 20 人と減っていき、1 年から 6 年生含め 3 クラスになると想定される。

市 民： それでは、反対意見がある限りは統廃合に踏み切らないという認識でいいのか。

事務局： 今日、この意見交換会で終わりという事ではない。このような、皆さんとの話し合いの数を重ねながら進めていきたい。この一回の話し合いで意見が出なかったからと言って、統廃合を決めるという事ではない。皆さんと話し合いながら、進めていきたい。

市 民： 小学校 3 年生の保護者です。教育長の先ほどの話の中で、“小学校にしても中学校にしても、いろんな人がいて、色々な状況になるよ”という話がありましたが、板橋小学校や伊奈東中学校においても荒れていたということは、規模的に大きすぎて、きめ細やかなケアができないのではないかと。統合するということは荒れるリスクが高くなるのではないかと。きめ細やかなケアができない状態をさらに作ってしまうことではないかと。東小学校は小規模学校のメリットを具現化している良い学校ということを知っているので、規模を大きくすることへの不安がある。

事務局： 荒れているという言葉は好きではないが、いろんな子どもがいるということ。もちろん東小学校は今現在、荒れている状況ではない。どこの先生も地域の人も、小学校を盛り上げてあげていることを知っている。しかし、将来を見据えて、あえて色々な子どもがいるところへ飛び込んでいく方がいいのではないかと。自分で判断して自分が良いと思う方を選ぶ力をつけさせたい。友達との関わり方を身につけさせたい。

市 民： いろんな経験をさせるということは、将来的にも子どもの役に立つと思うし、もっともだと思う。東小学校は規模が小さいので、そのような経験ができないのではないかとということだが、大人が導くということも必要。それが板橋小学校ではうまくいっていない。具体的な対策はあるのか。何も対策を講じてない状況の中に子どもを放り込みたい親はいない。こういう対策をしている板橋小学校に来てもらっても大丈夫だという具体的な方法や案はあるのか。

事務局： 板橋小学校の先生方は毎日大変な思いで頑張っている。子どもたちは、どこの環境で学んでも変わらないと思う。ここで、ある事例を紹介させていただきたい。県北の高萩市立君田小学校・中学校（小・中合わせて10人ぐらいしかいない学校）での話。そこでは、何とか廃校させないように地域の人たちが長い間、学校を支えていたが、ついに今年度で、廃校になってしまった。また、別の例であるが、日立市内の小規模小学校では、英語教育に力を入れ、市内の子どもたちに来てもらえるように呼びかけたがうまくいかず廃校になってしまった。

みらい平の陽光台小の子どもたちを東小学校に通学させればいいんじゃないかという話だが、陽光台小学校の完成が予定より二年ほど遅れたため、小学校が出来るまでの2年間、みらい平区域を4つに分けて、800人の児童を小張、十和、福岡、谷原の4つの小学校にバスで通学していただいた。陽光台小学校が開校し、小張小学校は400人から100人に戻った。結果的に他の3つの小学校も同じ現象が起きている。そのため、各先生方に子どもの多さについて意見を求めた時、元気で友達もたくさんできてすごく良かったと言っていた。

当時、小張小学校では子どもたちの多さで図書室を教室に変えなければならないほどだった。そういう小学校の子どもたちは統廃合の中でのプラス面もわかると思う。

市民： 4年生の保護者です。PTAでアンケートを取った結果を報告したい。統廃合については反対意見が多かった。それぞれの地域性があるので不安だ。私自身も思い入れのある東小学校だからこそPTAの役員をやっている。また、統合するにあたっては、送迎バス、体操服への助成金が出るのかななどの意見もあった。予算化されるのか、お聞きしたい。

事務局： 通学県内を4kmとしているので、バスについては必要になってくると考えている。バスを出す予定はあるが、有料か無料かという事は現段階では決まっていない。体操服など他の自治体などの事例では違う体操服でやっていたということはあった。

市民： PTAの役員を務めている。今のつくばみらい市は、みらい平に人口が集中している。利便性を求めて住んでいる人も多いと思う。本当は広い土地でゆったりと暮らしたい、小規模の学校で目の届く範囲で育てたいという方もいるかと思う。東地区での小規模の取り組み、広い土地を生かした庭、畑を生かした区画整理など、いろんなニーズに対応した住居環境を整えるのはどうか。

統廃合というのは、目先の人口増を見て対応しているのだと思う。つくばみらい市の10年20年先を考えて利便性を求める人や反対に小規模でものびのびとした環境で子育てをしたいという人の意見を吸い上げて、学区外のいろんな小学校に通うという選択肢をもてる市にしたら、小規模の地域も人口が徐々に増えるのではないかな。

事務局： 小規模校としてのPRはしていないが、広報誌の最後のページなどで、各小学校の紹介をしている。市内全域に配布しているので、今後も継続してやっていきたい。

事務局： 非常に前向きな意見をいただいたと思う。東小学校や無くなってしまう小学校に、自由に来てもらえるように地域の紹介をするなど、地域全体で考えていけば徐々に人口を取り戻していけるのかなと思う。

しかし、都市計画は非常に長いスパンでの計画を立てて行うものである。広い土地や畑を販売

できるような土地の集約させたり、区画整備などを整えないと住んでもらえない。そう考えると、10、20年先の計画を今から立てていかないといけない。みらい平にしても昭和63年から構想を練り上げてから現在に至っている。実際に人口が増え始めたのは、鉄道が開通した年から少し経った平成18年ごろから。構想から約20年かかった。

今通っている方も、これから通う方も、それまでの間をどうするか考えなくてはならない。

みらい平地はまだまだ、コミュニティが成立していない地区なので、陽光台、紫峰ヶ丘、富士見ヶ丘、それぞれの町丁目ごとに、ある一定の地区自治区域を形成して、今後のみらい平のまちづくりの形成を進めていくということも考えなくてはならない。その、基本となっているのが小学校、中学校であり、同じ学校に通っている人たちで将来を背負っていくと思っている。逆に東小学校を、半分は三島、半分は板橋となると今の東地区を分散してしまうのではないかと。東小地区のみんなが板橋小という選択が望ましいのではないかと。

市民： 去年の暮れの説明会にも参加した。去年の説明と今の説明とあまり変化がなかった。もう少しいろんな話が聞けると思ってきたのに、変化がなかったのが残念。過疎化が進んでいるのにも関わらず、東小学校がなくなるとさらに過疎化が進んでしまうことを不安視する意見を1年前にもしたはず。市内の小学校から東小学校やその他小規模の地域に振り分けたらどうかなどの意見は以前も言った。その意見をくみ取って、改善手法を検討してみたができなかったということで統合する流れなのではないかと。合併先の板橋小学校についても詳しく知らない。板橋小学校の校風や授業態度やいじめ問題についても詳しい情報を求めている。まず不安を取り除くための説明会を開いてほしい。今後も話し合いの場があるということだが、具体的な期間を考えているのか。それまでの間、我々もいろんな事を考えることができる。

また、跡地利用はどう考えているのか。どんどん過疎化が進むと困る。他の地域の人も来られるような積極的な活用をしてほしい。

事務局： 集める手法を考えアクションを起こしたのかという意見があったが、様々な検討をさせていただいた。例えば、東小学校では英語や三島小学校は理科や絵や音楽など特化した小規模校にしていけばいいかと考えたこともあるが、問題点は、最初の2～3年は特化した学校に興味を持って来てくれるだろうと思うが、公立なので、東小学校が英語に特化してやっていくと、もし仮に良い成果が出た場合、東小学校だけ何故やっているのかということになり、他の学校も取り入れることになり、差別化が出来なくなるということが見込まれる。特色ある学校が特色ではなくなってしまう恐れがある。私立であればそれでやっていくのもあるが、公立では難しい。

板橋小学校が荒れている点の解決策だが、学校側とも話したり、東小学校から板橋小学校へ行って子どもとの交流を深めることはやっていかなくてはいけないと思う。しかし、それは統合の合意ができた段階での問題だと考えている。できれば、来年度あたりから勉強会や交流会を開催して小学校の詳細を知ってもらうような内容で進めることを考えている。説明会の時期は、保護者の方、これから保護者になる方々を集めて早々にみんなで勉強を深めたいと思っている。教育環境を良くしていくためにいろいろ考えてはいる。もう少し保護者の方と勉強していきたい。

跡地利用に関しては、教育委員会の立場で色々考えている。仮に、小学校が無くなった時小学校とは違う用途で使用する場合は、住んでいる人たちにとってどんなものが一番いいのか共に考えたい。役所で潰すなら役所でちゃんと考えてから来いと思っている人もいるかと思うが、そうなる

と、役所と地域の人との距離が離れてしまうので、みんなと話し合っていきたい。今の子ども達や新しい保護者のために話し合っていきたい。

事務局： 次の意見交換会だが早急にしたいと考えている。

4. 閉会

事務局： 本日は貴重なご意見をありがとうございました。以上をもちまして意見交換会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上